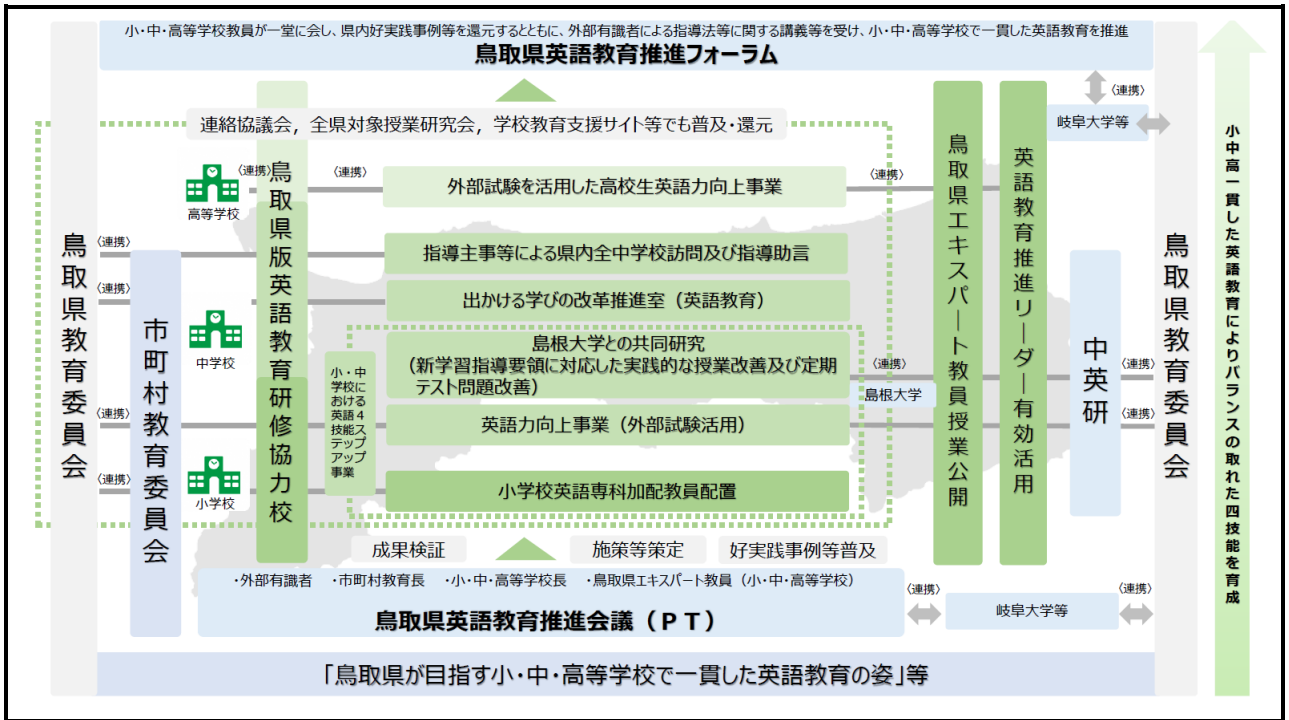


鳥取県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

○英語教育の状況を踏まえた目標管理

域内の全中学校等及び全高等学校における割合と状況（令和2年度については、「令和2年度鳥取県英語教育実施状況調査」集計結果等による）

①求められる英語力を有する担当教員の全担当教員に占める割合

- ・中学校

平成26年度	26.5%	平成27年度	25.7%	平成28年度	20.7%	平成29年度	28.2%
平成30年度	35.8%	令和元年度	34.9%	令和2年度	37.3%	令和3年度	46%
- ・高等学校

平成26年度	75.4%	平成27年度	70.9%	平成28年度	76.0%	平成29年度	83.3%
平成30年度	97.4%	令和元年度	92.7%	令和2年度	93.2%	令和3年度	99%

○方策

- ・公立小・中・高等学校教員採用試験の際、外部検定試験の一定条件を有する受験者に加点。
- ・各外部試験団体より提供されている特別受験制度について、求められる英語力を有していない教員に対して周知し、積極的な活用を促す。

②求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合

- ・中学校第3学年

平成26年度	32.0%	平成27年度	40.7%	平成28年度	34.4%	平成29年度	35.7%
平成30年度	37.1%	令和元年度	38.8%	令和2年度	45.6%	令和3年度	50%
- ・高等学校第3学年

平成26年度	29.0%	平成27年度	35.0%	平成28年度	33.9%	平成29年度	36.5%
平成30年度	33.3%	令和元年度	42.7%	令和2年度	44.6%	令和3年度	51%

○方策

- ・「鳥取県が目指す小・中・高等学校で一貫した英語教育の姿」等の周知を図り、授業中の言語活動を増やすとともにパフォーマンステスト等を適切に行い、指導と評価の一体化に関する具体的な改善を促す。

- ・外部試験を活用する「英語力向上事業」等を実施し、客観的なデータに基づいた各学校のPDCAサイクルを活用した指導改善を支援し、各校の実態に応じた指導法の改善と英語による発信力を高める授業力の向上を図る。
- ・県教育委員会指導主事等が県内全公立中学校・義務教育学校（後期課程）を訪問し、学校の実態に応じた指導法の改善について助言する。
- ・鳥取県中学校教育研究会（教育振興会）外国語部会（中学校英語教育研究会）（※以下、中英研）と連携し、新学習指導要領の趣旨を踏まえた中学校外国語科の授業づくりの周知と実践を強化する。
- ・鳥取県版小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業研修協力校（以下、県版英語教育研修協力校）や英語教育重点校（県立高等学校3校）を指定し、CAN-DOリストを活用して指導と評価の改善に取り組むとともに、外部試験による取組成果の検証を行い、効果的な実践指導について鳥取県英語教育推進フォーラムや各種研修会で普及還元する。

③「CAN-DOリスト」の形式で技能別に設定した学習到達目標の整備状況（設定・公表及び達成状況の把握等の状況）

・中学校

平成26年度	設定	1.7%	公表	1.7%	達成状況の把握	0%
平成27年度	設定	100%	公表	5.3%	達成状況の把握	28.1%
平成28年度	設定	98.2%	公表	12.3%	達成状況の把握	28.1%
平成29年度	設定	91.2%	公表	8.8%	達成状況の把握	29.8%
平成30年度	設定	96.5%	公表	43.9%	達成状況の把握	38.6%
令和元年度	設定	100%	公表	53.6%	達成状況の把握	37.5%

令和2年度（調査なし（不明））

令和3年度	設定	100%	公表	90%	達成状況の把握	90%
-------	----	------	----	-----	---------	-----

・高等学校

平成26年度	設定	100%	公表	4.8%	達成状況の把握	40.3%
平成27年度	設定	100%	公表	27.3%	達成状況の把握	33.3%
平成28年度	設定	100%	公表	15.2%	達成状況の把握	36.4%
平成29年度	設定	100%	公表	100%	達成状況の把握	42.4%
平成30年度	設定	100%	公表	100%	達成状況の把握	37.5%
令和元年度	設定	100%	公表	93.8%	達成状況の把握	28.1%

令和2年度（調査なし（不明））

令和3年度	設定	100%	公表	100%	達成状況の把握	60%
-------	----	------	----	------	---------	-----

○方策

- ・中学校においては、市町（学校組合）教育委員会のホームページに、学校ごとの「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標を掲載するよう求める。
- ・中学校、高等学校英語担当教員対象の英語指導法に関する研修で、パフォーマンステスト及び定期テストの適切な作成方法や実施方法などの学習到達目標の達成状況を把握する具体的な方策について周知する。
- ・中英研と連携し、新学習指導要領の趣旨を踏まえた中学校外国語科の授業づくりにおける「CAN-DOリスト」の効果的な活用について実践的に研究する。
- ・「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標を活用した授業における適切な言語活動の設定と評価方法について、研修会や公開授業後の指導助言で周知する。
- ・県版英語教育研修協力校事業における取組の様子を随時全県に周知する。

④授業における、生徒の英語による言語活動時間の占める割合（授業時間の50%以上実施の教員）

・中学校

平成26年度	26.7%	平成27年度	69.8%	平成28年度	45.3%	平成29年度	73.5%
平成30年度	67.2%	令和元年度	70.4%	令和2年度	（不明）	令和3年度	85%

・高等学校

平成 26 年度	40.3%	平成 27 年度	49.8%	平成 28 年度	46.3%	平成 29 年度	50.8%
平成 30 年度	48.7%	令和元年度	54.5%	令和 2 年度	(不明)	令和 3 年度	59%

○方策

- ・教育課程研究集会の中学校英語部会で、生徒にとって必然性及び意味のある本当の情報をやり取りできる言語活動を、授業内に適切に位置付けることを促す。
- ・鳥取県英語教育推進会議で作成した「シャトルチャット」（中学生用の即興的なやり取り素材集）の活用や昨年度国が作成したSmall Talkの実践をさらに広く促す。
- ・鳥取県エキスパート教員（外国語）や英語教育推進リーダーによる公開授業及び県版英語教育研修協力校の研究授業等で、英語 4 技能に係わる言語活動の効果的な指導のあり方について理解を深める。
- ・県内小・中・高等学校における、授業中の生徒の英語による言語活動時間の占める割合が高い授業実践事例（動画含む）を収集・編集し、学校教育支援サイトに掲載して全県に普及する。
- ・県教育委員会が「英語力向上事業」等で明らかになった生徒の英語力に関する課題を分析し、課題を克服する上で、英語による言語活動時間の確保についての重要性を周知するとともに、県教育委員会指導主事等による学校訪問をとおして、学校や生徒の実態に応じた指導改善について具体的に助言する。

⑤「話すこと」及び「書くこと」における外国語（英語）表現の能力を評価するためのスピーキングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステストの実施状況

<スピーキングテスト>

・中学校

平成 27 年度	8.1 回	平成 28 年度	6.8 回	平成 29 年度	6.5 回
平成 30 年度	8.7 回	令和元年度	8.8 回	令和 2 年度	(不明)
令和 3 年度	12 回以上				

・高等学校

「コミュニケーション英語Ⅰ」

平成 27 年度	1.1 回	平成 28 年度	1.8 回	平成 29 年度	1.6 回
平成 30 年度	1.1 回	令和元年度	1.0 回	令和 2 年度	(不明)
令和 3 年度	3 回以上				

「コミュニケーション英語Ⅱ」

平成 27 年度	1.0 回	平成 28 年度	0.8 回	平成 29 年度	0.7 回
平成 30 年度	0.5 回	令和元年度	0.6 回	令和 2 年度	(不明)
令和 3 年度	3 回以上				

「コミュニケーション英語Ⅲ」

平成 27 年度	0.4 回	平成 28 年度	0.6 回	平成 29 年度	0.3 回
平成 30 年度	0.6 回	令和元年度	0.2 回	令和 2 年度	(不明)
令和 3 年度	3 回以上				

「英語表現Ⅰ」

平成 27 年度	1.0 回	平成 28 年度	0.9 回	平成 29 年度	0.8 回
平成 30 年度	0.9 回	令和元年度	0.7 回	令和 2 年度	(不明)
令和 3 年度	3 回以上				

「英語表現Ⅱ」

平成 27 年度	1.3 回	平成 28 年度	1.2 回	平成 29 年度	0.9 回
平成 30 年度	0.7 回	令和元年度	0.8 回	令和 2 年度	(不明)
令和 3 年度	3 回以上				

<ライティングテスト>

・中学校

平成 27 年度	4.4 回	平成 28 年度	4.3 回	平成 29 年度	4.9 回
----------	-------	----------	-------	----------	-------

平成30年度 7.6回 令和元年度 8.5回 令和2年度 (不明)
令和3年度 10回以上

・高等学校

「コミュニケーション英語Ⅰ」

平成27年度 0.4回 平成28年度 0.8回 平成29年度 1.0回
平成30年度 1.9回 令和元年度 0.9回 令和2年度 (不明)
令和3年度 3回以上

「コミュニケーション英語Ⅱ」

平成27年度 0.6回 平成28年度 0.7回 平成29年度 1.0回
平成30年度 1.0回 令和元年度 1.2回 令和2年度 (不明)
令和3年度 3回以上

「コミュニケーション英語Ⅲ」

平成27年度 0.5回 平成28年度 0.3回 平成29年度 0.1回
平成30年度 0.7回 令和元年度 1.4回 令和2年度 (不明)
令和3年度 3回以上

「英語表現Ⅰ」

平成27年度 0.4回 平成28年度 0.8回 平成29年度 1.3回
平成30年度 1.8回 令和元年度 1.4回 令和2年度 (不明)
令和3年度 3回以上

「英語表現Ⅱ」

平成27年度 1.5回 平成28年度 1.9回 平成29年度 2.9回
平成30年度 2.4回 令和元年度 4.4回 令和2年度 (不明)
令和3年度 6回以上

○方策

- ・県版英語教育研修協力校事業等を中心に、パフォーマンステストのモデルやルーブリックを開発し、その実践における成果と課題を検証し、授業研究会や学校教育支援サイト等への随時掲載等をとおしてパフォーマンス評価の在り方について全県に周知する。
- ・中学校、高等学校英語担当教員対象の英語指導法と評価に関する研修で、パフォーマンステスト及び定期テストの適切な作成方法や実施方法などの学習到達目標の達成状況を把握する具体的な方策について周知する。
- ・英語教育重点校（県立高校3校）における取組事例等を全県に普及する。
- ・中英研と連携し、パフォーマンステストの質の向上を図り、成果の出た事例等について域内及び全県への普及還元を図る。

⑥授業における、英語担当教員の英語使用状況（発話の50%以上を英語で行っている教員）

・中学校

平成26年度 26.7% 平成27年度 56.5% 平成28年度 75.2% 平成29年度 61.3%
平成30年度 63.4% 令和元年度 64.0% 令和2年度 (不明) 令和3年度 74%

・高等学校

平成26年度 40.3% 平成27年度 47.4% 平成28年度 46.3% 平成29年度 48.1%
平成30年度 50.8% 令和元年度 56.8% 令和2年度 (不明) 令和3年度 70%

○方策

- ・鳥取県エキスパート教員（英語）や英語教育推進リーダーによる公開授業をとおして、授業における教師の英語の使用割合や運用上の工夫及び生徒との英語のやり取りにおけるフィードバックの在り方等について実践的に理解を深める。
- ・鳥取県英語教育推進フォーラムにおいて、「授業は英語で行うことを基本とする」授業づくりの実践好事例を発表し、全校種への周知を図る。
- ・各校種における教員の英語使用モデルを具体的に示す好指導事例（動画含む）を学校教育支援サイトに随時掲載し、全県に普及する。

- ・中英研と連携し、研究テーマの一つである「教科書の効果的な活用」を推進するため、授業中に教員に求められる英語の使用場面とその工夫や効果について実践的な研究を継続する。

⑦英語（外国語）の学習が好き、と答えた児童・生徒の割合

- ・小学校（全ての公立小学校で調査）

平成30年度 84.5% 令和元年度 83.4% 令和2年度 79.3% 令和3年度 87%

- ・中学校（全ての公立中学校で調査）

平成26年度 未実施 平成27年度 未実施 平成28年度 66.8% 平成29年度 68.6%
平成30年度 69.1% 令和元年度 66.5% 令和2年度 67.5% 令和3年度 78%

- ・高等学校（全ての全日制県立高等学校で調査）

平成26年度 未実施 平成27年度 30.0% 平成28年度 51.0% 平成29年度 53.4%
平成30年度 53.5% 令和元年度 51.4% 令和2年度 53% 令和3年度 58%

○方策

- ・「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標を指導と評価に適切に活用する。
- ・生徒が自分の考えや気持ちを英語で伝える言語活動を充実させ、生徒の自己有用感や自尊感情を高めることにつながる授業実践を県内の学校に紹介する。
- ・生徒の学習意欲を高める指導と評価についての研修会等の機会を活用し、使いながら英語を身に付けるための言語活動や学習において、生徒が達成感や成就感を感じられるよう、教員からのフィードバックスキル向上を図る。

⑧英語力が向上した、と答えた生徒の割合

- ・中学校（全ての公立中学校で調査）

平成26年度 未実施 平成27年度 未実施 平成28年度 80.5% 平成29年度 83.6%
平成30年度 84.8% 平成31年度 83.5% 令和2年度 83.3% 令和3年度 91%

- ・高等学校（全ての全日制県立高等学校で調査）

平成26年度 未実施 平成27年度 36.1% 平成28年度 60.5% 平成29年度 63.5%
平成30年度 66.6% 令和元年度 68.3% 令和2年度 72.2% 令和3年度 75%

○方策

- ・「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標を生徒に示し、授業での指導内容を適切に評価し、達成状況を生徒と共有し、生徒に達成感を持たせる。
- ・県版英語教育研修協力校事業等を中心に、パフォーマンステストのモデルやルーブリックを開発し、その実践における成果と課題を検証し、授業研究会や学校教育支援サイト等への随時掲載等をとおしてパフォーマンス評価の在り方について全県に周知する。
- ・自己評価シートの導入で生徒の意識に大きな変化が見られた好事例についても、学校教育支援サイト等で全県に普及する。
- ・中英研と連携し、パフォーマンステストの質の向上を図り、成果の出た事例等について域内及び全県への普及還元を図る。

⑨小学校の新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合

令和2年度 20% 令和3年度 30% 令和4年度 35% 令和5年度 40% 令和6年度 45%
令和7年度 50%

○方策

令和3年度公立学校教員採用候補者選考試験において、小学校教諭志願者で次の基準を満たす資格の所有者に対して、第一次選考試験の専門試験（筆記試験）の得点に加点した。

対象試験区分	基 準				加点
	実用英語技能検定	TOEFL	TOEIC L&R	TOEIC L&RとTOEIC S&Wの合算スコア	
中学校教諭（英語） 高等学校教諭（英語）	1級	iBT 100 点以上又は PBT 600 点以上	880点以上	1680点以上	25点
	準1級	iBT 80点以上又は PBT550点以上	730点以上	1405点以上	20点
小学校教諭 特別支援学校教諭	1級	iBT 100 点以上又は PBT 600 点以上	880点以上	1680点以上	25点
	準1級	iBT 80点以上又は PBT550点以上	730点以上	1405点以上	20点
	2級	iBT 45点以上又は PBT470点以上	550点以上	1100点以上	10点
	準2級	iBT 38 点以上又は PBT 400 点以上	450点以上	925点以上	5点

※TOEIC L&RとTOEIC S&Wの合算スコアは、次により算出する。

$$(\text{合算スコア}) = (\text{L\&Rトータルスコア}) + (\text{Sスコア}) \times 2.5 + (\text{Wスコア}) \times 2.5$$

令和4年度公立学校教員採用候補者選考試験においては、現行の加点の上位、下位に条件を追加し、英語に関する資格の所有者への加点を検討しているところであり、英語に関する資格所有者の受験を図っていく予定。（条件については調整中）

令和5年度以降においても同様に、英語に関する資格の所有者への加点を検討していく方向である。

(3) 研修の体系と内容の具体

本県の課題

ア 中学生の英語力向上

コミュニケーションを図る「目的・場面・状況」を明確にした言語活動の在り方が課題である。CAN-DOリストの有効な活用や使用する英語の正確さ等に関する効果的なフィードバック等をより促しながら、バランスの取れた英語4技能（5領域）を育成する必要がある。

イ 中学校区内における小中連携の強化

小学校外国語活動及び外国語科の授業を参観したことがない中学校教員が少なくない。小・中・高等学校で系統性のある英語教育を実践するためにも、小学校における令和2年度からの新学習指導要領全面実施を踏まえ、実際の指導内容の接続をもとにした中学校区内における小中連携を強化する必要がある。

ウ 指導改善の具体を示す好指導事例等の普及

過年度の英語教育研修協力校における授業改善のための取組や授業改善に前衛的に取り組んでいる県内教員の事例等をより効果的に普及するため、市町村教育委員会や鳥取県中学校教育研究会（教育振興会）外国語部会（中学校英語教育研究会）との連携を強化する必要がある。

① 教員の指導力向上事業

ア・研修名：小学校教員の英語力及び授業力並びに中学校英語指導と評価の一体化の推進による授業力向上事業

・研修目的・内容：新学習指導要領全面実施に対応した小学校外国語授業づくりの具体及び改善のポイントを学ぶとともに、中学校英語教育における指導と評価の一体化を図るため、拠点校（小学校1校、中学校1校）において、島根大学と連携した共同研究を実施し、県内全小中学校に普及・還元する。

イ・研修名：小学校英語専科教員等指導力向上研修

・研修対象者：小学校英語専科加配教員、小学校英語教育推進リーダー、希望する小・中学校英語担当教員、希望する市町村（学校組合）教育委員会

・研修目的・内容：令和元年度までの3年間の取組成果と課題をふまえ、小学校英語専科教員等の

指導力を担保するとともに、専科加配教員や推進リーダーを、新学習指導要領全面実施後も本県小学校外国語教育のリーダーとして小学校教員と連携を深めながらよりよい指導環境基盤を形成していくため、授業研究会とセットにした研修会を開催し、県内小学校英語教育を牽引するリーダーのネットワークも構築する。その取組の様子について、鳥取県エキスパート教員の公開授業における研究会等で広く紹介する。

ウ・事業名：出かける学びの改革推進室（英語）

- ・事業対象者：希望する中学校、義務教育学校（後期課程）の英語担当教員及び市町（学校組合）教育委員会
- ・事業目的・内容：県教育委員会指導主事等が、希望する学校を訪問し、平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査（中学校英語）や英語力向上事業等の分析や授業参観をとおして明らかとなった当該校の個別課題等について、学校現場の教員と一緒に具体的な改善策等を考え、さらなる指導力の向上を目指す。

② 生徒の英語力向上事業

ア・事業名：外部試験を活用した高校生英語力向上事業（高等学校）

- ・事業対象者：大学進学を希望する県立高等学校2年生全員
- ・事業目的・内容：バランスのとれた4技能の習得に向けた動機づけをさらに図るとともに、外部試験の結果もふまえたPDCAサイクルによる指導改善により、生徒の英語力向上に効果的な取組や成果を県内高校に普及・還元する。特に、生徒の「話すこと」「書くこと」の2技能の強化・伸長を目指す。
- ・受験予定者数：2000人程度

イ・事業名：英語力向上事業（中学校）

- ・事業対象者：県内中学2年生全員
- ・事業目的・内容：中学生が県内で外部試験を受験する機会を確保するとともに、外部試験受験の実施をとおして英語学習のさらなる意識づけを図るとともに、結果を分析・活用して課題に即応的な学習改善に主体的に取り組ませる。教員は、結果等を分析の上、PDCAサイクルによる授業改善等に活用する。
- ・受験予定者数：5000名程度

③ 英語教育推進リーダー公開授業

- ・研修名：小・中・高等学校英語教育推進リーダーによる公開授業
- ・研修対象者：地区別に開催される公開授業に、該当地区各校または全県から任意参加
- ・研修目的・内容：カスケード研修で伝達された指導法が、実際の授業でどのように活用されているのかを、英語教育推進リーダーの授業を通して学び、4技能をバランスよく伸ばすための授業改善に生かす。
- ・受講予定者数：200名程度
- ・研修の評価方法：研修参加教員を対象とするアンケート調査

④ 中学校、高等学校英語担当教諭対象の評価に関する研修

- ・研修名：生徒の学習意欲を高めるための指導と評価についての研修
- ・研修対象者：各県立高等学校英語教員1名、希望する中学校教員
- ・研修目的・内容：生徒の英語によるパフォーマンスを適切に評価し、指導と評価の一体化に基づいて定期テスト問題を改善するとともに、教員が評価を自らの指導改善につなげるため、東京外国語大学教授（予定）を講師に招聘し、研修を行う。
（※年度内1回実施）
- ・受講予定者数：50名程度

- ・研修の評価方法：研修参加教員を対象とするアンケート調査

⑤鳥取県版小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業研修協力校支援研修

- ・研修名：鳥取県版英語教育研修協力校支援研修

- ・研修対象者：県版英語教育研修協力校英語科教員及び域内の小・中・高等学校英語教員並びに希望する市町村（学校組合）教育委員会

- ・研修目的・内容：県教育委員会が連携する英語教育学を専門とする大学等の教員が、県版英語教育研修協力校教員の授業改善について指導助言を行ったり、同研修協力校が自校の課題を解決することを目指して招聘する大学教員等の授業研究会（ワークショップ）を開催したりすることとおして、小・中・高等学校で系統性ある英語教育を実践するための具体的な連携の在り方や指導法について研修する。（※同研修協力校ごとに年度内1回実施）

- ・受講予定者数：90名程度

- ・研修の評価方法：研修参加教員を対象とするアンケート調査

⑥鳥取県英語教育推進フォーラム

- ・研修名：鳥取県英語教育推進フォーラム

- ・研修対象者：県内小・中・高等学校英語教員及び希望する市町村（学校組合）教育委員会

- ・研修目的・内容：小・中・高等学校英語担当教員が一堂に会するフォーラムを開催し、鳥取県英語教育推進会議における議論等の成果及び県内小・中・高等学校における指導実践好事例等を還元するとともに、外部有識者による指導法等に関する講義を受けて、小・中・高等学校で一貫した英語教育の推進を図る。

- ・参加予定者数：120名程度

- ・研修の評価方法：研修参加教員を対象とするアンケート調査

⑦外国語指導助手の指導力等向上研修

- ・研修名：外国語指導助手の指導力等向上研修

- ・研修対象者：ア 中・高等学校外国語指導助手
イ 中・高等学校英語教員

- ・研修目的・内容：学習指導要領に基づき、外国語指導助手と英語教員が協力しながら、より効果的な指導を行えるよう、専門の有識者による講義演習を行い、各校の取組について協議する。

- ・受講予定者数：150名程度

- ・研修の評価方法：研修参加教員を対象とするアンケート調査

⑧小学校の新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合の増加に向けて

令和3年度公立学校教員採用候補者選考試験において、小学校教諭志願者で次の基準を満たす資格の所有者に対して、第一次選考試験の専門試験（筆記試験）の得点に加点した。

対象試験区分	基 準				加点
	実用英語技能検定	TOEFL	TOEIC L&R	TOEIC L&RとTOEIC S&Wの合算スコア	
中学校教諭（英語） 高等学校教諭（英語）	1級	iBT 100点以上又は PBT 600点以上	880点以上	1680点以上	25点
	準1級	iBT 80点以上又は PBT550点以上	730点以上	1405点以上	20点
小学校教諭 特別支援学校教諭	1級	iBT 100点以上又は PBT 600点以上	880点以上	1680点以上	25点
	準1級	iBT 80点以上又は PBT550点以上	730点以上	1405点以上	20点
	2級	iBT 45点以上又は PBT470点以上	550点以上	1100点以上	10点
	準2級	iBT 38点以上又は PBT 400点以上	450点以上	925点以上	5点

※TOEIC L&RとTOEIC S&Wの合算スコアは、次により算出する。
 (合算スコア) = (L&Rトータルスコア) + (Sスコア) × 2.5 + (Wスコア) × 2.5

令和4年度公立学校教員採用候補者選考試験においては、現行の加点の上位、下位に条件を追加し、英語に関する資格の所有者への加点を検討しているところであり、英語に関する資格所有者の受験を図っていく予定。(条件については調整中)

令和5年度以降においても同様に、英語に関する資格の所有者への加点を検討していく方向である。

(4) 年間事業計画

月	鳥取県教育委員会等の取組	外部専門機関等
4月	・ 小学校英語専科教員連絡協議会①	
5月	・ 鳥取県版英語教育研修協力校連絡協議会① ・ 鳥取県英語教育推進会議①	岐阜大学 等
6月		
7月	・ 英語教育推進リーダーによる公開授業（高等学校）	
8月	・ 生徒の学習意欲を高める指導と評価についての研修 ・ 鳥取県版英語教育研修協力校連絡協議会②	東京外国語大学
9月	・ 鳥取県版英語教育研修協力校支援研修（中学校） ・ 鳥取県版英語教育研修協力校支援研修（高等学校） ・ 小学校英語専科教員等指導力向上研修	（調整中） （調整中） 関西学院大学
10月	・ 鳥取県版英語教育研修協力校支援研修（小学校） ・ 県教育センター主催の専門研修（中学校英語）	（調整中） （調整中）
11月	・ 鳥取県英語教育推進フォーラム	岐阜大学 等
12月	・ 外国語指導助手の指導力等向上研修	（調整中）

1月	・鳥取県英語教育推進会議②	岐阜大学 等
2月	・鳥取県版英語教育研修協力校連絡協議会③ ・小学校英語専科教員連絡協議会②	
3月		
<p>【その他の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校外国語活動支援員の配置（通年） ・県教育委員会指導主事等による全中学校訪問（通年） ・「出かける学びの改革推進室」（英語）（希望する中学校、義務教育学校を訪問。通年） ・島根大学との共同研究（通年） ・英語力向上事業（県内全中学2年生対象、9月～11月） ・外部試験を活用した高校生英語力向上事業（大学進学を希望する県立高校2年生対象、7月～12月） ・とっとりイングリッシュキャンプ（県内中・高校生50名対象。8月中に2泊3日で実施） ・グローバルリーダーズキャンパス（県内高校生約25名対象。スタンフォード大学と連携した、オンライン遠隔講座。年間10講座程度実施） ・高校生英語弁論大会（9月） 		

鳥取県教育委員会

※表中、斜線部は記入不要。計画段階では目標値のみ記入。

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
		公表(%)	100	100	100	93.8	100		100	100	100	
		達成状況の把握(%)	50	37.5	50	28.1	55		60	65	65	
	②生徒の授業における英語による言語活		55	48.7	55	54.5	57		59		60	
	現行課程	○スピーキングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	2	1.1	2	1	2		3		3
			コミュニケーション英語Ⅱ	2	0.5	2	0.6	2		3		3
			コミュニケーション英語Ⅲ	2	0.6	2	0.2	2		3		3
			英語表現Ⅰ	2	0.9	2	0.7	2		3		3
			英語表現Ⅱ	2	0.7	2	0.8	2		3		3
			英語表現Ⅲ	2	1.9	2	0.9	2		3		3
		○ライティングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	2	1	2	1.2	2		3		3
			コミュニケーション英語Ⅱ	2	0.7	2	1.4	2		3		3
			英語表現Ⅰ	2	1.8	2	1.4	2		3		3
			英語表現Ⅱ	3	2.4	3	4.4	5		6		6
			英語表現Ⅲ									
			英語表現Ⅳ									
	新課程	○スピーキングテスト(回)	英語コミュニケーションⅠ									
			英語コミュニケーションⅡ									
			英語コミュニケーションⅢ									
			論理・表現Ⅰ									
			論理・表現Ⅱ									
			論理・表現Ⅲ									
		○ライティングテスト(回)	英語コミュニケーションⅠ									
英語コミュニケーションⅡ												
英語コミュニケーションⅢ												
論理・表現Ⅰ												
論理・表現Ⅱ												
論理・表現Ⅲ												
④英語担当教員の授業における英語使用状況(%)		65	50.8	65	56.8	65		70		70		
⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)		88	97.4	98	92.7	98.5		99		99		
⑥求められる英語力を有する生徒の割合(%)		45	33.3	45	42.7	50		51		52		

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	96.5	100	100	100	100	100	100	100
		公表(%)	50	43.9	70	53.6	70		90		100
		達成状況の把握(%)	50	38.6	50	37.5	40		90		100
	②生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)		75	67.2	75	70.4	80		85		90
	③パフォーマンステストの実施状況	スピーキングテスト(回)	6.5	8.7	9	8.8	11		12		13
		ライティングテスト(回)	5	7.6	8	8.5	9		10		11
	④英語担当教員の授業における英語使用状況(%)		65	63.4	70	64	72		74		76
⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)		40	35.8	40	35	43		46		50	
⑥求められる英語力を有する生徒の割合(%)		40	37.1	40	38.8	45		50		50	

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	学習到達目標の整備状況	設定(%)					50		75		100
		公表(%)					25		75		100
		達成状況の把握(%)					50		75		100

独自	No.	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校		英語の学習が好きと答えた児童の割合	68	84.5	85	83.4	86	79.3	87		88	
		英語を使ってできることが増えたと答えた児童の割合						84.0	85		90	
中学校		英語の学習が好きと答えた生徒の割合	70	69.1	73	66.5	75	67.5	78		80	
		英語力が向上したと答えた生徒の割合	85	84.8	87	83.5	90	83.3	91		92	
高等学校		英語の学習が好きと答えた生徒の割合	57	53.5	57	51.4	57	53.0	58		60	
		英語力が向上したと答えた生徒の割合	67	66.6	68	68.3	70	72.2	75		74	